

21世紀、最初の1年が、終わろうとしています。

福島の子供たちは、すっかり雪化粧をし、もうすぐ始まる2002年を迎えるべく、準備をととのえ静かにその時を待っているようです。

もっと早い時期に、会からのお知らせを出したいと願っておりましたが、次々に現れる、ハードルを飛び越える事に忙しく、今ごろになってしまいました。

世界的には心が痛む事件が次々おこり、大変な1年でしたが、ルワンダの教育を考える会にとりましては、飛躍的に成長した1年であったように思われます。

大まかではありますがこの1年を振り返ってみたいと思います。

平成12年度から準備を進めて参りました「NPO法人」になるための申請書類を4月12日に県へ提出することができ、お陰様で、平成13年8月6日付けで県より認定され、それまで任意団体であった本会も、「特定非営利活動法人ルワンダの教育を考える会」として、活動を始めることができました。

また8月6日から12日までの1週間、うつくしま未来博の国際交流ゾーン・フレンドシップハウスへ、出展団体として参加することができ、県内外の方と交流することができました。御手伝いの方が、県内はもちろん、東京や、山形からも駆けつけて下さり楽しい中にも有意義な一週間を過ごすことができました。

11月24日には、コンゴ出身のムクナさんをお迎えして、チャリティーコンサートを開くことができました。赤字になる事も無く、大勢の皆さんと楽しい時間を持つことができました。また皆さんがそれぞれの持ち味を発揮して御手伝い下さり、昨年と比べて、会にとりまして運営面では格段の成長が感じられました。

5月より準備を始めました、トラックをルワンダへ送る事業についてもお知らせいたします。高橋理事長のお世話によりまして福島トヨタさんから中古のトラックをご寄付いただく事となり、トラックを送るのであれば、コンテナをお借りして、そこに積めるだけの荷物を詰め込んでルワンダへ送ろうという事になりました。輸送のための資金は、90万円近くでした。いろんなかたのご理解を頂き、皆様から寄せられました60万円近いご寄付と、県国際交流協会の助成によりまして、無事コンテナを送り出すことができました。

福島市教育委員会より机と椅子を、渡利小をはじめ、たくさんの小中学校から、生徒さんたちが集めた学用品等をご寄付いただきました。

6月中旬溢れんばかりの荷物を積んで福島を出発したコンテナは、6月30日に横浜を出港し、8月中旬モンバサに陸揚げされ、陸路を通して、9月上旬無事ルワンダのキガリに着きました。

その後、この荷物は、営利目的の輸出では無く、皆さんの善意の寄付である事が認められ、免税となりましたが、税関との意思疎通に時間がかかり、なかなか荷物が学校に着きませんでした。12月、会議のために来日した在中国ルワンダ大使、ルワンダ本国の財務大臣と、ルイズが面会することができ、お陰様でようやく、子供達の手荷物を届けることができました。

ルワンダから届いたばかりの写真をコピーして同封いたしました、子供達の輝く笑顔をごらん下さい。

ルイズの講演活動もおかげさまで順調で、毎月、多い時で5回から、少なくとも3回は講演の依頼をいただきました。県内はもちろん、埼玉県の久喜市、東京の八王子市、京都の天台宗総本山、愛媛県、仙台市と、たくさんの皆様との出会いがありました。

資金面も順調で、皆様からの会費やご寄附、未来博の売り上げ、コンサートの収益金など、60万円近く送金できる見込みです。

3月には山形の会員の方から、150万円のご寄付を頂き、ルワンダへ送金しました。6月には、立正佼成会の一食平和基金から100万円の助成を頂き、8月には、天台宗一隅を照らす運動からも100万円の助成を頂き、それぞれ送金させて頂いた結果3つ目4つ目の教室の建設が進んでいます。

また愛媛県の会員の方と、久喜市の会員の方が素晴らしいイベントを企画して下さい、たくさんのご寄付をして下さいました。

ざっと振り返りましたが、きちんとしたニュースレターを来年1月末には発行する予定です、どうぞ御楽しみにして下さい。

また入会申込書も新しくなり、皆さんにできるボランティアを登録して頂くようになりました。それも同封いたしますので、目を通して頂き、御自分にできるボランティアを会の方まで御知らせ頂ければ幸いです。

尚1月には会の郵便振替口座を開く予定です。13年度の会費未納の方には、振替用紙を後日御送りいたしますので、よろしく御願いたします。

2002年が皆様にとって良い年でありますように御祈りいたします。

特定非営利活動法人ルワンダの教育を考える会

理事長	高橋啓子
副理事長	カンベンガ・マリールイズ
事務局長	飯高千恵子

